

2015年12月25-27日 香港

昨年12月25日から27日にかけて、アジアジュニア・ユースオリエンテーリング選手権大会(AsJYOC)が開催された。これまで遇数年にアジア選手権が開催されてきたが、これはそのジュニア(20歳以下)とユース(16歳以下)版。日本からも20人を超えるジュニア/ユース選手たちが参加した。

2015年12月25-27日 香港  
アジアジュニアユースオリエンテーリング選手権大会



男女混合リレーで優勝した日本チーム

## ミックスリレーで君が代

選手権とは銘打っているが、ジュニア世代を対象とする大会として、各国の親睦も大会の大きなテーマとなっていた。ほとんどの選手が23日から現地の宿舎に入り、練習やセミナーに参加しながらの大会である。

25日は、スプリント形式によるミックスリレー。各国男女2人の合計4名が1チームとなり、女→男→男→女の順にリレーする。日本はジュニアクラスのWM20に2チームを正規チームとしてエントリーした。ただでさえ瞬間的な判断が要求されるスプリントがリレー形式で行われる。それほど複雑な環境ではないにも関わらず、ミス続出のレース展開となった。残念ながらJAPAN1は失格、しかし、文字通り胸の差で2位にゴールしたJAPAN2(鈴木直美、橘孝祐、高野兼也、宮本和奏各選手)が、トップでゴールした中国の失格により初のジュニアアジア王者の栄冠を手に入れた。

会場で開会式と兼ねてのフラワーセレモニーが行われ、宿舎に帰ってから正式の表彰式が行われる。メインポールに日の丸が揚がる中、君が代が流れる。歳のせいもあって、目頭が熱くなる。8クラスも表彰があるので、揚がった国旗はすぐ降ろされる。あ、急いで写真撮らないと半旗になってしまふ……。涙している場合じゃない。

男女混合リレー  
ユース(16歳以下)  
1位 香港  
2位 中国  
3位 香港2

ジュニア(20歳以下)  
1位 日本  
(鈴木直美、橘孝祐、高野兼也、宮本和奏)  
2位 香港  
3位 中国

## 稲森・ミドル種目を制する

翌26日はミドル種目。3日間で唯一の森でのオリエンテーリングである。トレインは1998年のAPOCロングでも使われた昂平(ニヨンピン)である。ジャングルトレインが多いあのころの香港で数少ない自由に走れるトレインだったが、最近は野生化した牛の数が減り、草を食べてくれないせいか、雑草や灌木も茂り放題である。おまけに大小の岩石特徴物が至るところにあって、ジュニアたちも大苦戦。1時間半の競技時間を過ぎてもなかなか帰ってこない選手も多く、運営側としてはやきもきしたが、大きなけがもなく競技は終了した。

この日もまた君が代を聞くことができた。M20では、秋にインカレロングとスプリントを制して波に乗っている稲森選手が優勝。男子はこのクラスで4位までを独占した(2位松尾怜治、3位平原誉士、3位国沢楽の各選手)。またM16(ユース選手権)では、和佐田祥太郎選手が1位、椎名晃丈選手が3位に、女子ではW20で宮本和奏選手が2位、山岸夏希選手が5位、勝山佳恵選手が6位に入賞した。

ミドル種目(26日:ニヨンピン)

M20ミドル  
1位 稲森 剛 34'44  
2位 松尾怜治 37'39  
3位 平原誉士 40'58  
3位 国沢 楽 40'58  
5位 香港  
6位 中国

W20  
1位 香港 40'57  
2位 宮本和奏 41'25  
3位 香港  
4位 香港  
5位 山岸夏希 60'37  
6位 勝山佳恵 65'43

M16  
(参考:エストニア 33'45)  
1位 和佐田祥太郎 43'45  
2位 香港  
3位 椎名晃丈 48'45  
4位 香港  
5位 香港  
6位 中国



ミドル種目のトレイン「昂平」を走る



どの国のジュニアにとっても手ごわいレースだった。コントロールのそばで呆然と地図を読む選手たち



ミドルM20では上位を独占。メインポールにあがる日の丸と君が代に目頭が熱くなる

## スプリントでM16 椎名が優勝

最終日 27 日は、北区公園と住宅地を利用したスプリントが行われた。日本ではとてもレースをやらせてもらえないような住宅地でのスプリントを楽しむことができた。中国選手はこの手のトレインに慣れているようで、残念ながらこの日は WM20 クラスでの優勝はなかったが、M16 では椎名晃丈選手が優勝、和佐田祥太郎選手が 2 位となった。M20 では、坂梨哉選手が 3 位、稲森剛選手が 4 位、松尾怜治選手が 6 位であった。また W20 では宮本和奏選手が 5 位、鈴木直美 6 位であった。この結果、日本は 4 個の金メダルの他にのべ 13 人の入賞を獲得した。

この日は午後、市内観光が設定されていた後に、バンケットが行われた。ジュニア大会だからアルコールもディスコもなかったが、香港オリエンテーリング協会の心温まる演出のおかげで、各国選手ともレース後の緊張から解放され、弾ける姿が印象的だった。2 年後の大会はまだ決まっていない。だが、彼ら若者の活躍する姿を見られることを期待したい。

### スプリント種目(27日:北区公園・粉嶺)

#### M20

1 位	中国	15' 19
2 位	中国	
3 位	坂梨 哉	15' 26
4 位	稲森 剛	15' 34
5 位	香港	
6 位	松尾怜治	16' 01

#### W20

1 位	中国	14' 23
2 位	中国	
3 位	中国	
4 位	香港	
5 位	宮本和奏	16' 15
6 位	鈴木直美	17' 02

#### M16

1 位	椎名晃丈	11' 52
2 位	和佐田祥太郎	12' 43
3 位	香港	
4 位	香港	
5 位	中国	
6 位	カザフスタン	



住宅街を疾走する日本選手。スプリント種目にて



すべてのレースが終わり、一緒に写真に納まり、弾ける選手たち。スポーツに国境はないという陳腐なフレーズがずっと胸に落ちる瞬間

(村越 真)